

世界は一つの方向へ歩まざるをえないところまできている。……………早野 透さん

北海道洞爺湖サミット取材した。「2050年までにCO<sup>2</sup>半減」という目標を掲げることがアメリカ、フランスなど主要8カ国で決議された。世界の大きな動きは、それぞれの国の事情を越えて一つの方向へ歩まざるをえないところまできている。しかしG8以外の参加国の半分は、これから発展しようという国々。ようやく経済が発展してきたところに、先進国のツケを回されては困ると言い出した。結局、中国やインドは、CO<sup>2</sup>を減らすのには賛成するが、50%削減という数字には賛成しない共同声明を出した。これから国を築いていこうという国からは、まずもう少し生活を向上させたいという思いがあふれ出ている。やはり先進国が本当に思いきったリーダーシップを取らなければならないと思う。

人間は、38億年の長い時間をベースに在る「生き物」である。……………中村桂子さん

この50年間は経済優先できて、本当に生き物が生きにくくなっているという実感がある。基本は「私たちは生き物だ」ということ。効率で選んでいたら、こんなにたくさんの生き物がいるはずがない。この地球をつくってきた空気、酸素を作ったのは植物だ。そして植物を生き生きとさせているのは虫たち。生き物は地球を創る能力もある。38億年という長い時間をベースにして私たちがいる。スローライフは、今という時間の中でセカセカと考えるのではなく、「長い時間」を考えに入れていただきたいと思う。人間が生き物としてちゃんと生きていけるような、新しい環境、食べ物、健康、教育をつくるベースとして、スローライフの考え方があればと思う。

足元見つめ、ライフスタイルの転換が必要。鳥取から提案したい。……………平井伸治さん

人間はこの200～300年の間に、地球温暖化に影響をもたらした最大の原因である産業革命をつくりあげ、以後、たいへんなコストのかかるライフスタイルをつくりあげてしまった。かつて、世界中の人がアメリカ人のような生活をしたら地球は四つ必要だという研究が示されたが、それは今、現実化してきている。私たちはもう一度足元を見つめ、ライフスタイルを変えなければならないというのが、スローライフの考え方と思う。アメリカのバーモント州はアメリカで統計を取ると、一番住みやすい土地の一つに挙がる。環境がすばらしい、環境に対する配慮がある。緑の保全もいろいろ展開している。それが世界中で見直されている。鳥取からもそんなライフスタイルを提案したい。

因幡の魅力、スローライフを切り口に全国に発信したい。……………竹内 功さん

鳥取らしい暮らし方がすなわち環境に優しい生活で、同時にスローライフになってゆく。こうしたことを「2009 鳥取・因幡の祭典」を通じて、一市四町の地域の中で大きく推進したいと思い、このスローライフ学会フォーラムを鳥取に迎えた。ゆっくり、ゆったり、とっとり体験。自然、文化、歴史、温泉、祭り、田舎暮らし……因幡のトータルな魅力をスローライフという一つの切り口で、しっかり全国に訴え、発信していきたい。頭の中で考えるだけでなく体験してゆく。ゆっくり立ち止まったり、味わったりしながら、急いでやらなければならないことは急いで、緩急自在に鳥取らしい生活を確立すれば、地域の環境を良くすることにも必ずや、つながると思う。

経済的に最も効率のいい行為は環境にもやさしい。 .....神野直彦さん

経済的に最も効率がいい行為は、環境にとって最もやさしい行為になる。なぜなら、経済とは私たちが自然に働きかけて人間に必要なものを取り出す行為のこと。その時に犠牲にするものがコストで、これを最少にするのが最も効率的な行為だ。

私の恩師の宇沢弘文先生が某新聞の座談会で、「環境問題は地域ではなくグローバルに考えなければだめだ」という意見に怒りをもって反論され、「環境問題は地域から上に上げてゆく問題だ。なぜなら自然はそれぞれの地域ごとに顔があり、自然に最もフレンドリーな優しい行為は地域から考えていかなければならない」とおっしゃった。きょうここで報告を聞いて、もはや鳥取では地域から環境問題を考え、実践されていることを心強く思った。